

# ボランティア視察研修

11月9日、ボランティア視察研修を防災ボランティアしんと共催で、10年前に起きた新潟県中越大震災の被災地である小千谷市において開催しました。

新潟県中越大震災のメモリアル拠点である4施設、3公園を結ぶ中越メモリアル回廊は被災地をそのまま情報の保管庫にする試みで、また、それぞれの拠点を巡ることで震災の記憶や復興を実際にふれることができる回廊となっています。

その回廊の一つである「おぢや震災ミュージアムそなえ館」では、説明を受ける一方で参加者からは盛んに質問が飛び交うなど大震災を教訓にして緊急時への対応について真剣に学ぶ姿がありました。そして、次に向かった妙見メモリアルパークでもテレビで放映された映像が昨日のようで10年の時の早さと、地崩れのその巨大さに圧倒された様子でした。

災害はいつ発生するかわからない、最低限の「そなえ」が必要と改めて感じる時間になったと思います。



## 東日本大震災復興支援事業



新地町社協元災害ボランティアセンター長

また、新地では町内をまわりながら説明を受け、80%以上被災住宅が復旧し生活している様子など復興計画が進んでいる話が聞け、参加者も少しほっとしている表情でした。

今回、初めて参加された方からは「実際にこの場所に来てみないとわからないことが多い。」「榛東村とこの2カ所のつながりの強さを感じた。また研修があったら参加したい。」との感想を聞くことができました。

復興にはまだまだ時間がかかり、「決して、忘れてはならない」ということを感じ取られたことと思います。

東日本大震災から3年半以上が経ち、震災以来初めていわき市から南相馬市へ国道6号線が開通し「復旧」に向けて一步一步前に進んでいる福島。

震災当時ボランティア活動をした、南相馬市、新地町を再び訪れ、自分の目で見て感じて、決して風化させないために11月28日に「東日本復興支援研修」を開催しました。

南相馬市では福祉作業所「えんどう豆」の利用者の方々が震災時音楽に助けられたことの想いを曲にした演奏や踊りを披露してくださり心が和むひとときでした。



南相馬市「えんどう豆」